



植柳の風

八代市立植柳小学校 校長室便り
平成31年1月21日 NO. 123

「熊本的心」を育む

20日(日)、「熊本的心」県民大会(熊本県教育委員会、熊本的心推進協議会主催)が、八代市厚生会館で午前10時過ぎから開催された。大会テーマ「ふるさとの歴史と文化の継承」。会場には、県下各地から学校、教育行政、社会教育関係者や一般の方たちが約700人ほど集まり、ほぼいっぱいとなっていた。

植柳小学校児童代表15人は、午前8時半に学校に集合し、主催者側が用意してくれたバスで元気に会場に向けて出発。ほどなく午前9前に到着すると、慌ただしくリハーサルを行った。午前10時15分、オープニングとして、RKKアナウンサーの福島絵美さんの「熊本的心」朗読と八代妙見祭の子ども獅子舞の披露が行われた。獅子舞の獅子を演じていた高校生と中学生の男子生徒が、演技終了後のインタビューで、「小学生の時、球振りをするところから始めました。僕たちが故郷にある八代妙見祭の伝統を守っていきたいと思います。」(高校生)「獅子の後ろは、腰をずっと曲げていなければならないからきついです。」(中学生)等と答えると、会場から温かい拍手と笑い声が起っていた。開会行事や作文表彰等が終わると、さあ、いよいよ植柳小学校の実践発表の時間である。楽屋で歌を歌いながら緊張をほぐしている女子児童たちもいたが、さすがに舞台袖でスタンバイすると、否応なしに緊張は高まってくる。

「皆さん、こんにちは。これから植柳小学校宝暦萩原堤の発表を始めます。」「皆さんは、宝暦萩原堤を知っていますか。まず、映像をご覧ください。」平松くんと宮嶋くんの息の合った司会で始まった本校の実践発表は、最初に、以前RKKで放送された動画を流し、萩原堤が決壊した史実を紹介した。次に、本校の取組として、2学期の授業参観で「熊本的心 宝暦萩原堤」を題材とした授業に取り組んでいることや昭和12年に誕生した伝統児童劇のことをスライドで紹介した。

「それでは、昨年、厚生会館で発表した時の様子をご覧ください。」もちろん全部ではないが、劇の名場面をつないで編集した動画を参加者に披露すると、劇の感動がじわじわと会場に集まった人たちに伝わっていくことを感じた。「では、映像でも披露した植柳の花棒踊りを今から踊ります。」小川くんがそう紹介すると、軽快な太鼓とともに、ステージ横から床をどんとどんと棒で叩きながら、勇壮ないで立ちの児童たちが登場。音楽が流れ、口説きとともに、花棒踊りを児童が演じ始めると、会場の方たちも食い入るように見入り、演武が終わると大きな拍手が沸き起っていた。



「ぼくは宝暦萩原堤に出たことで、頑張ればなんとかなることを学びました。」「私は、セリフを覚えるのが大変で難しかったです。命の大切さを学びました。」「ぼくの役は言葉や動作一つ一つが難しく、何度も練習しました。これからも伝統を受け継ぎ、郷土を愛する心を持っていきたいです。」実践発表の締めくくりとして、司会の二人が昨年の劇に出演した児童たちにインタビューを行なった。児童が上記のように何か答えるたびに、会場から拍手が自然に起こっていた様子が印象的だった。

「熊本的心」とは、「助け合い 励まし合い 志高く」である。約3年前の熊本地震や先日の和水町地震など、まだまだ災害からの完全復旧に向けた道のりは険しい。だが、熊本に住む我々が「熊本的心」を大切にしながら、一歩ずつ前に歩むことで、きっと道は必ず開ける。未来を担う子どもたちの力強いメッセージは、きっと多くの人に届いたことだろう。

